

# 学芸員という職業

Occupation as Curators

もともと大学で（はるか昔のことですが）文化財に関係する学科を専攻していたのですが、在学時は学芸員に必要な単位を取り切らずに卒業しました。市役所に勤務するようになってから学芸員資格を取ってみようと思ひ立ち、通信制で足りない単位をそろえ、学芸員として勤務するようになりました。

学芸員の魅力、醍醐味は、なんと言っても「ホンモノ」の資料・作品を目の前にできることです。この世に一つしかない大切なものですから、それだけに取り扱うときは緊張しますが、本物を見ることでしか味わえないことや、本物を見て初めて気付かされることもあります。それが大きな魅力です。

貴重な資料を  
後世に  
つなぎたい。

市立博物館で働く学芸員に、どのような思いで仕事と向き合っているのか、話を聞きました。



学芸員として本物の資料に触れ合えるのは、博物館に勤務している限られた期間だけですが、資料はできるだけその状態を変えずに、後世の人たちへ繋いでいくべきものです。

そんな重要な仕事に携わることができる学芸員として、やりがいを感じています。皆さんも博物館にお越しの際は、展示された目の前の作品一つ一つを楽しんでいただくと同時に、これらの作品が未来へ引き継がれていくことを心の片隅で感じていただけたら、嬉しいですね。

今後、もっとAI技術が発達したら、外国の観光客がふらっと立ち寄っても、展示内容を理解して、満足してくれるような博物館にできたらいいな、と夢みたくことを時々思うことがあります。「オー！Tsugaru-nuri、ソー・クール！」みたいな（笑）…もしかしてそんな時代が来たら、すごく楽しみです！

幼い頃から両親に連れられて博物館や遺跡を訪れることが多く、小学生の頃はインディ・ジョーンズのような考古学者になるのが夢でした。でも、大学は全く異分野の情報システム課程に進学しました。教養の科目で何気なく履修した日本史の授業で先生に声を掛けられたことがきっかけで、3年生から転課程し、日本史の世界へ。文献から当時の人の考えを読み解く面白さや、新しい発見をした時の快感にハマり、博士課程まで学びました。

歴史研究に携わる仕事は、高校・大学の教員や、博物館、文書館、研究所などの施設に限られる狭き門なのですが、たまたま募集のあった岩手県花巻市で学芸員を6年間勤めた後、地元弘前にUターンして現在の職に就くことができました。

市民に  
知的な時を  
贈りたい。



主査兼学芸員  
小田桐 陸弥

学芸員の仕事は、展示というスタイルで皆さんに調査研究の成果を知ってもらえる機会があることが一番の楽しみだと思っています。地元でなかなか見られない著名人の名作を集めた展覧会を皆さんに見てもらうことももちろん大切なことですが、私の専門が近世災害史なので、いつか災害に関連した展示をする機会が持てれば…という野望を持っています。

博物館は特別な場所ではなく、芸術や文化に身近に出会える施設です。時間をかけてじっくり見学してお気に入りの資料を見つけたり、ちょっとだけ時間ができた日にお気に入りの1点を愛でたり、建築としての博物館を楽しんだり…、来館の際は、ぜひそんな知的な時を過ごしてもらえたら幸いです。



## 学芸員の職務

Works of Curators

学芸員の仕事は展覧会の設計や展示作業のみにとどまりません。

日々の大切な仕事として、収蔵資料の保存・管理作業や、他施設への貸し出しなどの業務も行っています。

### 保存・管理

現代まで残る貴重な歴史資料を、この先の未来につなぐために、日々、保存・管理作業を入念に行っています。



▲収蔵庫内部（非公開、本特集のために特別に撮影したもの）

### 収蔵品の貸し出し

収蔵している資料を他の博物館や美術館へ貸し出しして、より多くの人に感動を与えています。



▲資料1点1点の状態確認や採寸などを、学芸員が立ち会って行う

### 終わりに

今回は、学芸員の仕事にスポットを当てて、展覧会の裏側を紹介しました。

展示資料を観覧者に「魅せる」立役者の存在を意識しながら、博物館に足を運んでみませんか。普段とは少し違った視点で作品を鑑賞できるかもしれません。

